

会 告

第72回講演大会講演募集

第1種講演申込・原稿締切5月16日
第2種講演申込締切6月18日・原稿締切8月31日

本会は第72回講演大会を、今秋10月16日より10月18日までの3日間、鉄鋼短期大学（尼崎市）において開催することになりました。

本大会より講演募集方法を下記のごとく、第1種講演（講演論文提出）と第2種講演（講演概要提出）の2形式とすることになりました。

第1種講演

従来通り講演大会で発表する予定の研究成果を講演論文寄稿規程に従った講演論文として提出し、発表するものがあります。（討論講演論文もこれに準ずる）

第2種講演

講演大会で発表する内容を簡単に概要として提出し、当日に理論あるいはデータなど未発表の最新の成果を発表するものであります。講演は事後に講演論文寄稿規程に準じて投稿していただくものとしますが、一部依頼論文としてお願いする場合があります。

なお、概要は講演概要（前刷）としてオフセット印刷のうえ希望者に配布致します。

本講演大会において講演発表をご希望の方は、下記「講演申込み上の注意事項」をご覧のうえ別記講演申込要領、に従いいずれかの形式で奮ってご応募下さるようご案内申し上げます。

なお上記二種類の講演を比較対照しますとつぎのようになります。

第1種、第2種講演の相違点

	第1種（従来のもの）	第2種（新しい方式）
内 容	すでに共同研究会、学振などで発表を終わっている論文でもよい。質的に高いものを歓迎。	応募の時までに他には未発表で極最新の研究論文。
原 稿 締 切	講演4、5カ月前	講演1・5カ月前に原稿 (申込締切は4カ月前にカード提出)
講 演 前 刷	講演論文集（鉄と鋼通巻）	講演概要集（オフセット刷） (希望者有料頒布限定版)
前刷論文の長さ	本印刷約3ページ (6400字以内)	1論文1ページ（約1300字） (図、写真適宜)
講 演 時 間	講演15分、討論10分 (計25分)	講演10分、討論5分 (計15分)
講演後の取りまとめ		講演後1カ月以内に後刷講演論文集原稿提出

講演申し込み上の注意事項

1. 講演申込み資格

講演者は本会会員に限ります。非会員の方で講演を希望される方は、所定の入会手続を済ませられたうえ、講演申し込みをして下さい。また共同研究者で非会員の方も入会手続をされるよう希望いたします。

2. 申込用紙

講演申込みは、添付講演申込み用紙をご使用下さい。

第1種講演 黄色申込み書 第2種講演 橙色申込み書

3. 申込用紙記載について

- 1) 第1, 第2種とも*印をのぞき(A), (B)の両方にご記入下さい。
- 2) プログラム編成上の参考としますので, 「論文分類欄」に講演内容が下記のいずれに該当するかおよび基礎応用の別をご記入下さい。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
原 料	燃 料 ・ 熱	耐 火 物	製 鉄 (<small>ロアロイを含む 特殊製鉄・フェ</small>)	製 鋼 ・ 溶 解	造 塊	塑 性 加 工	熱 処 理	鉄 鋼 の 組 織 ・ 性 質	鑄 物	溶 接 (<small>溶接技術全般</small>)	腐 食 ・ 表 面 処 理 ・ 防 食	分 析	試 験 ・ 検 査 技 術	計 測 ・ 自 動 制 御	I E そ の 他 一 般 技 術	そ の 他

- 3) スライドの要否は該当するものに○印をつけて下さい。
- 4) 講演者には必ず氏名の前に○印をつけて下さい。
- 5) 第2種申込み書の講演内要の要旨は100字を限度としてご記入下さい。

4. 申込みの受理

第1種講演, 第2種講演とも別記申込要領をご覧のうえお申し込み下さい。ただし下記の申し込みは理由の如何にかかわらず, 受付はいたしませんので十分ご注意下さい。

- 1) 所定の用紙以外の用紙を用いた申し込み
- 2) 必要事項が記入されていない申し込み
- 3) 第1種講演で講演論文が添付されていない申し込み
- 4) 単なる書簡または葉書による申し込みならびに電報, 電話による申し込み

5. 講演申込み先 (問合せ先)

東京都千代田区丸ノ内1-1 交通公社ビル
日本鉄鋼協会 編集課

第72回講演大会討論会討論論文募集

第72回講演大会における討論会のテーマ(鉄と鋼1月号会告掲載)は下記の通りです。多数会員奮つてご応募下さい。

記

1. 討論会テーマ

- 1) 高炉における高圧操業
- 2) 鋼の脱酸と非金属介在物
- 3) 熱間振り試験による鋼の加工性の評価
- 4) X線マイクロアナライザーの鉄鋼への応用

2. 原稿申込方法 会告N25 ページ掲載の第1種講演申込要領をご覧のうえお申し込み下さい。

3. 原稿締切日 昭和41年5月16日(月)

(A) 第 1 種 講 演 論 文 申 込 書

(注 *印以外に明確にご記入下さい)

*受年月日		和文題目	研究 者 名 (講演者○印)	氏 名
*受番号				
*講者番号		英文題目	勤務先	学位号
原総枚数	枚			
本枚数	枚	英文題目	論文分類	氏 名
表数	表			
図数	図	英文題目	勤務先	学位号
写真数	葉			
連絡者名		連絡先 (勤務先・所在地)	電話 ()	基礎用

(B)

*受番号	付号	和文題目	勤務先	氏 名 (講演者○印)
*講時	演聞	英文題目	学位号	
*講番	演号	英文題目	勤務先	
論分	文類	英文題目	勤務先	
スライド (○印)	要 否	英文題目	講演者名 (ローマ字)	

日本鉄鋼協会誌原稿表紙

* 分類番号		* 昭和 年 月 日 受付			* 掲載号数		第 年 第 号	
原稿の種類		講演論文・投稿論文・依頼論文・技術資料・講義・特別講演・その他						
題		和文						
		欧文						
目								
著者氏名 (講演者○印)	会員資格	勤務先	称号	氏名	(ローマ字) (Full name)	原稿枚数	枚	
	会員					表数	表	
	会員					図数	図	
	会員					写真数	葉	
	会員					鉄と鋼英文誌 掲載希望	有・無	
寄稿者連絡先 および氏名								
発表の方法		昭和 年 月 日・第 回		(支部)講演会発表・その他				
備考		有 料 別 刷					部	

*印は記入せぬこと (協会事務局で記載)

(A) 第2種講演論文申込書

(注) *印以外に明確にご記入下さい

*受年月日		和文題目		研究者名 (講演者○印)
*受番付号		和文題目		勤務先
*講番演号		和文題目		学位号
論文種類	基礎 応用	和文題目		氏名
要旨	要旨			この論文を他機関で発表、討論されたことがありますか
連絡者名	連絡者名			発表場所
	連絡先 (勤務先・所在地)			電話 ()

(B)

*受番付号		和文題目	勤務先	学位号	氏名 (講演者○印)
*講時演間		和文題目			
*講番演号		英文題目			
論文種類	基礎 応用	英文題目			
タイトル (○印)	要	英文題目	講演者名 (ローマ字)		

I. 第1種講演申込み要領(討論講演原稿を含む)

- 1) 講演申込締切 昭和41年5月16日(月)16時着信厳守のこと。
- 2) 申込み方法 前記「講演申込み上の注意」をご覧のうえ添付の第1種講演申込み用紙(黄色)に必要事項を記入し、講演論文を添えお申し込み下さい。
- 3) 討論講演原稿 討論講演原稿としてお申込みの方は、原稿表紙「原稿の種類欄」の右隅に「討論講演」と朱書して下さい。
- 4) 講演時間 1講演につき講演15分、討論10分とします。
- 5) 講演論文原稿 原稿執筆のさいは会告N27ページ掲載の講演論文寄稿規程をよくお読みのうえ、つぎの各項目についても十分ご注意下さい。
 - (1) 原稿表紙に必要事項を記入し、原稿用紙には題目、著者名など重複記入しないで下さい。
 - (2) 論文の内容が豊富な場合には、第1報、第2報の分割形式(例参照)としてもさしつかえありません。

(例) 焼入性におよぼす酸素の影響について
(鋼の焼入性に関する研究-I)
 - (3) 英文・和文要旨は原稿枚数には数えません。
 - (4) 章、節などの表わし方は、下記のごとくポイント・システムを用いること。

章	1, 2, 3
節	1・1, 1・2, 1・3
項	1・1・1, 1・1・2, 1・1・3
小見出	(1), (2), (3)
 - (5) 文章は楷書にして、鉛筆書きはさけること。
 - (6) 数字は2字で和文活字の1字分に相当するので表の原稿作成には特に注意のこと。また縦、横のケイも1字分に相当する。
 - (7) 表原稿には図を挿入しないこと。
 - (8) 図の原稿は鮮明なもので規定第15項にしたがつて作図し、方眼状の目盛りを入れること。
 - (9) 講演論文中単なる工場設備、工場建設の記録、製品の紹介にすぎないものは論文原稿として採用しない場合があります。
- 6) 講演論文集 「鉄と鋼」第52年9月号または10月号として刊行いたします。
- 7) 講演論文別刷 希望者に部数を20部と限定、有料で作成いたします。
- 8) 講演論文の採否 編集委員会において採用の決定した論文は第52年8月号に発表の講演プログラムにて採用通知にかえさせていただきます。不採用原稿については別途ご連絡いたします。
- 9) 原稿の訂正 昭和41年6月15日以後の原稿修正は印刷作業の都合上お断りいたします。
- 10) 原稿用紙 協会所定の原稿用紙は1冊30円(30枚綴)で頒布いたします。送料下記の通り。

1部	20円	2部	40円	3部	60円
4部	70円	5部	90円	6部	110円

II. 第2種講演論文申込み要領

- 1) 講演申込み締切 昭和41年6月18日(土)12時着信厳守のこと。
- 2) 申込方法 前記「講演申込み上の注意」ご覧のうえ、添付の第2種講演申込み用紙(橙色)に必要事項ご記入のうえ、返信用封筒(宛先明記, 10円切手粘付のこと)を添えお申し込み下さい。
- 3) 講演時間 1講演につき講演10分, 討論5分
- 4) 講演概要 講演概要は前刷としてオフセット印刷いたします。
 - (1) 申込書受付と同時に講演申込者は所定のオフセット用原稿用紙をお送りいたしますので, 原稿用紙1枚(表, 裏, 写真を含み1300字)に墨または黒インクで明瞭にお書き下さい。
(執筆案内は原稿用紙送付の際同封いたします)
 - (2) 講演概要は読者が, 研究の内容, 成果などを理解しやすいようにお書き下さい。
 - (3) 原稿締切日 昭和41年8月31日(水)16時着信厳守のこと。
- 5) 講演前刷 「講演概要集」として発行いたします。
概要集は希望者に有料頒布となりますが, 詳細は追つてご案内いたします。
- 6) 概要講演の投稿 第2種講演は事後討論を含めたその内容を講演論文として会誌に掲載いたしますので, 11月10日までに協会編集課宛原稿をご提出願います。
この論文は「講演論文寄稿規定」に準じてご執筆下さい。

「鉄と鋼」講演論文寄稿規程

講演論文は本協会会員が本協会講演大会においてその研究結果を発表するために、その講演大会で発表する予定の研究結果を講演論文としてあらかじめ協会に提出し、講演論文集に掲載されるものである。講演論文の内容は著者の独創的研究結果で、少なくとも研究目的、研究方法、研究結果が正確に記述されているものとし、講演論文の長さは、**図・写真・表を含んで本協会所定の原稿用紙8枚以上16枚まで、図・写真はあわせて5枚以内**として、規程の締切日までに提出しなければならない。

- (1) 講演論文は、本誌に載せる前にほかの学協会の講演会において発表されないものに限る。
- (2) 講演論文は、年2回(春、秋)開催される本協会講演大会において発表する予定の研究成果をまとめ、本協会によりそのつど定める期限内に協会へ提出されるものとする。
- (3) 講演論文の内容は著者の独創的寄与を主体とするもので、少なくとも研究目的、研究方法、研究結果が明確に記述されているものとする。内容が豊富な場合には、第1報、第2報の分割形式(例参照)としてもよい。

(例) 焼入性におよぼす酸素の影響について

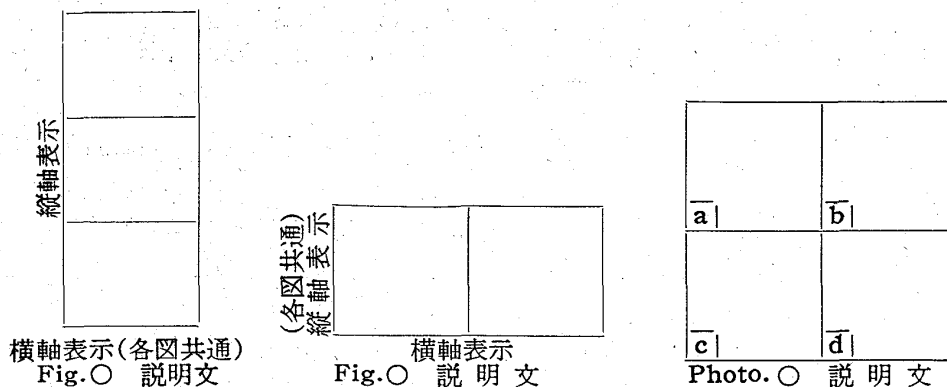
(鋼の焼入性に関する研究-I)

- (4) 原稿の表紙および原稿用紙は本協会所定のものを用いる。原稿の表紙には所定事項を確実に記入し、原稿は左横書きとする。
- (5) 平易な口語体を用い、漢字は特殊な専門用語のほかは当用漢字を用い、かなは新かなづかい(第4表の例を参照)によること。
- (6) 講演論文には必ず英文題目、100語以内の英文要旨、英文要旨の和訳文を添付する。英文要旨は編集委員会で審査の結果、Tetsu-to-Hagané Overseasに掲載されることがあるので、それによつて主要成果がわかる程度に書かれていること。
- (7) 講演論文の原稿の長さは、**図・写真・表を含んで本協会所定の原稿用紙8枚以上16枚までの範囲内に限定し、図および写真はあわせて5枚以内**とする。図および写真の占める面積については、下記の(15)項を参考にして正しく算定し、原稿枚数が規定外にならないようにする。また同一の事項を図・表両方で表わさないこと。
- (8) 文章には、最も読みやすくするために句点(,)および終止点(.)を適当に付ける。いずれの場合にも原稿用紙の1こまをあてる。
- (9) 数量を表わす場合にはアラビア数字を用い、単位は原則としてCGS単位系を用いるが、電磁気量の場合にはMKS単位系を用いてよい。単位の略記号は第1表の例に従う。周知でない単位には略記号を用いないこと。
- (10) 外国語の固有名詞および訳語が確定していない外国語の術語は原則として原語で書くが、周知のものはかたかな書きとする。なお必要な場合は原語を書き添える。元素名、合金名、化合物名はなるべく化学記号によつて示すが、周知の合金名、化合物名は化学記号表示を行なう必要はない。(第2表の例参照)
- (11) 英字、数字、ギリシャ文字はていねいに記し、混同しやすい文字はとくに注意して書くこと。英字の大文字、小文字、ギリシャ文字で混同しやすい文字はとくに赤字でⓈ、Ⓣ、Ⓤなどと傍記する。ゴシック、イタリックを指定するときは、その文字の下にそれぞれ——、~~~~を付けること。添字の上ツキ、下ツキは正確に記すこと。
- (12) 数式は印刷に便利のように注意し、 b/a 、 $(a+b)/c$ のように、不明確にならない程度になるべし少ない行数で表わすように書く。
- (13) 表はなるべく本文中に挿入すること。1つの表の大きさは、会誌の1ページの面積を考慮し、横の刷り上がり寸法7cmまたは14.5cm、縦の刷り上がり寸法18cm以内におさまるようにする。
- (14) 図・写真・表の説明は英文とする。写真には必ず倍率を記入する。
- (15) 図および写真は、横の刷り上がり寸法が下記のいずれかの寸法となるように、刷り上がり寸法の2~3倍大とし、下記の縮尺記号を記入しておくこと。

(イ) 横7cm(縮尺A)。 (ロ) 横14.5cm(縮尺B)

刷り上がり後の縦の寸法は18cm以内とする。

図および写真の横の縮尺が上記のように定めれば、縦の刷り上がり寸法も定められるから、図および写真の占める面積を算出し、下記の規準に従つてその面積に相当する字数を求め、原稿の長さが本規程(7)の



範囲外にならないようにする。

縮尺Aの場合、刷り上がり面積 42 cm² は 400 字、すなわち所定原稿用紙 1 枚に相当する。

縮尺Bの場合、刷り上がり面積 87 cm² は 800 字、すなわち所定原稿用紙 2 枚に相当する。

図および写真を並列して 1 個に取り扱うことができるのは、下記の数例の場合に限る。

図は白紙、オイルペーパー、または青色方眼紙を用いて書き、図および図中の文字は縮尺を考慮して十分な大きさおよび間隔をもつて正確に書くこと。

- (16) 図および写真は散逸を防ぐため、原稿用紙または適当な大きさの合紙に貼付し、右下隅に著者名を記入すること。図・写真は原稿本文中に挿入せず別紙とし、原稿中には右欄外にその挿入箇所を指定する。原稿本文中に図・写真挿入箇所を空白にあげないこと。

- (17) 参考文献は、通し番号を付け、本文の最後一括して番号順に示し、本文中における文献引用箇所にはその文献の番号（かつこ付き）を上つき小数字で示す。

参考文献は著者名：雑誌名，巻数（発行年度），号数，ページ数の順に記載すること。

（例） R. K. GLASS: Blast Furn. & Steel Plant, 46 (1958)2, p. 198~204

雑誌名は第 3 表の略記例に従う。単行書は、著者名：書名，（発行年度），ページ数，[出版社名]の順に記載する。

第 2 報以後の講演論文には必ずその前報を参考文献として示すこと。

- (18) 寄稿された講演論文の受理年月日は、本協会ですらめた講演論文原稿締切日とする。
- (19) 寄稿講演論文は編集委員会において審査される。下記の各項のいずれかに該当するものは受理されない。
- (a) 学術および技術への寄与がほとんど無いと考えられる場合
 - (b) 著者の独創的寄与がほとんど含まれていない場合
 - (c) その講演論文に直接関連するほかの重要な研究論文を参考文献として示していない場合
 - (d) 寄稿規程の (6), (7), (15), に確実に従っていない場合およびそのほかの規定に著しく違反する場合
 - (e) 内容に顕著な誤りが含まれている場合
- また編集委員会において、内容の一部を修正、削除することがある。
- (20) 支部講演会における発表は、講演論文の形では受理しないので、早期の誌上発表を希望するときは研究速報の形式で原稿を提出すること。
- (21) 講演論文の原稿は返却しない。
- (22) 講演論文の別刷は部数を 20 部に限定、希望者に有料で作成する。

第1表 単位およびその記号の例

量	単位の名称	単位記号	量	単位の名称	単位記号
角 度	ラジアン 度 分 秒	rad°'''	工 率 動 力	キロワット ワット エルグ毎秒 英馬力	kW W erg/sec HP
長 さ	キロメートル メートル センチメートル ミリメートル ミクロン オングストローム キロX線単位	km m cm mm μ Å kX	温 度	セツ氏温度 絶対温度°C°K
面 積	平方メートル 平方センチメートル 平方ミリメートル	m ² cm ² mm ²	熱 量	ジュール キロカロリー カロリー	Joule, (J) kcal cal
体 積	立方メートル 立方センチメートル 立方ミリメートル キロリットル リットル ミリリットル	m ³ cm ³ , cc mm ³ kl l ml	熱伝導度	カロリー毎秒センチメートル度	cal/(sec. cm. deg)
時 間	年 日 時 分 秒	year(年) day(日) hr min sec	比 熱	ジュール毎キログラム度 カロリー毎グラム度	Joule/ (kg·deg) cal/g·deg
毎分回転数	回毎分	rpm	熱容量	ジュール毎度	Joule/deg
速 度	キロメートル毎時 センチメートル毎秒 メートル毎分	km/hr cm/sec m/min	電 流	アンペア ミリアンペア	A mA
加 速 度	センチメートル毎秒毎秒	cm/sec ²	電流密度	アンペア毎平方メートル	A/m ²
周波数 振動数	サイクル毎秒 キロサイクル毎秒 メガサイクル毎秒	c/sec kc/sec MC/sec	電界の強さ	ボルト毎メートル	V/m
質 量	トン キログラム グラム ミリグラム	t kg g mg	電 起 電 圧 力	キロボルト ボルト ミリボルト	kV V mV
密 度	グラム毎立方センチメートル	g/cm ³	電 気 容 量	ファラッド	Farad, (F)
力	ニュートン ダイン 重量キログラム	N dyn kgw	電 気 抵 抗	オーム マイクロオーム	Ω μΩ
応 力 圧 力	キログラム毎平方ミリメートル グラム毎平方センチメートル バール ミリバール 気圧 水銀柱ミリメートル	kg/mm ² g/cm ² bar mbar atm mmHg	コンダクタンス	モ	σ
エネルギー 仕事	ジュール エルグ 重量キログラム・メートル キロワット時	Joule erg kgm kWh	インダクタンス	ヘンリー	Henry, (H)
			電 力	キロワット ワット	kW W
			磁界の強さ	エルステット アンペア毎メートル	Oe A/m
			磁 束	ウェーバ マックスウェル	Wb Maxwell, (M)
			磁束密度	ウェーバ毎平方メートル ガウス キロガウス	Wb/m ² G kG
			組 成	容積パーセント 重量パーセント 原子パーセント	vol% wt%, % at%
			モル濃度	モル毎リットル	mol/l

第2表 論文中の術語の書き方例

1) 表題に用いる術語は不明瞭な省略語は用いない。

たとえば“………脱酸, 脱硫作用……”とし, ……脱O, 脱S……”は不可

2) 本文にて最初に述べる術語は, 内容の十分理解できる親切な表現を用いること。

たとえば“………生じた Hercynite(FeO·Al₂O₃)は………”

“平衡定数 *K'*, Gibbs の自由エネルギー *G* は………”

“マグネタイト (Fe₃O₄) を N₂ を含む CO で還元した結果, Fe₃O₄ は………”

“シリカ・カプセルをかぶせた低炭素鋼板を管状炉内で加熱したが, ほとんど脱炭しなかった。”

3) 本文にて繰返し用いる場合は化学記号, その他のすでに認められた省略記述でよい。

たとえば溶鋼中の成分 (無限稀釈液標準の場合) は C, O で表わし

“ ” “ ” (純液規準の場合) は [Ni], [Fe] などで表わす

また, たとえば, 文中に「オーステナイト」の語が多数出てくるときは, その最初のところで「オーステナイト(γ)」として以下「 γ 」を用いてよい。

4) 学術技術の進歩とともに日本語訳では十分表現できない言葉が次第に増してきているから, 下記の例のようにカナ書きとして術語を表わす。しかし意味のピッタリした簡明な日本語訳のある場合は慣用に従つてなるべく日本語を書くことを原則とする。次に例を示す。

i) カナ書きが妥当と思われるもの

ガス, エネルギー, プロパン,
 リムド鋼, キルド鋼
 ポテンシャル
 窒化アルミニウム AlN
 ニオブ, タンタル
 グラファイト
 (エレクトロンプロブ) X線マイクロアナライザー
 ベアリング, または軸受
 オーステナイト, フェライト, バイナイト, インゴット,
 ピレット, フープ, パス, スケール, ステンレス鋼,
 クリープ, プレス, ロール, ブルーム, ブローホール,
 キャンパー, カーボメーター, セメントタイト, 板のクラウン,
 フェロアロイ, フランジ, ガイド, ジョミニー試験,
 マクロ腐食, マンドレル, マルテンパー, マルテンサイト,
 ノッチ, オーバル, ポリゴナイズ, スクラップ,
 セミキルド鋼, シャー, スラブ, スラッグ, ストリップ,
 タンデムミル, ピッカース硬さ(硬度計)

備 考

日本語になりきつている
 慣用の期間が長く, ピッタリしたよい訳がない
 ピッタリした日本語訳がなく慣用している
 窒化アルミの形は用いない
 または Nb, Ta (通常 Cb は用いない)
 または黒鉛
 略記としては EPMA, XMA などが慣用
 “メタル”は不可 (混同しやすい)

鉄冶金慣用語の例

ii) 原語を一度書き添えることが妥当だと思われるもの

フォーミング(foaming) } フォーミングは forming もあり混同することもある
 パージング(purging) }
 フラッターリング(fluttering) } 日本語に十分慣用されていない
 スカルピング(scalping) }

iii) 省略的記述の例

78Ni-22Fe 合金 } 18-8ステンレス鋼の場合は慣用によつて Cr, Ni 省略
 Ni-Cr-Mo 肌焼鋼 }
 Ferro-Si-Zr } フェロアロイの場合を表わす
 5% nital, picral など } 化学記号表示の必要はない
 JIS-SUS 31 } AISI, DIN, En その他同様
 U.S. Pat. 1,932,566 } 米国の慣例による
 Hb 100, Hrc 50 } ブリネル, ロックウェルC硬度値
 HNO₃ (5%) } 分析の場合など“硝酸水溶液”に慣用

付 表 文 献 略 记 例

雜誌名	略記	雜誌名	略記
Acta Metallurgica	Acta Met.	Journal of the Iron and Steel Institute	J. Iron & Steel Inst. (U. K.)
American Foundrymen's Society, Preprint	Amer. Foundrym., Preprint	Journal of Metals	J. Metals
American Institute of Mining, Metallurgical and Petroleum Engineers,		Les Mémoires Scientifiques de la Revue de Métallurgie	Mém. Scient., Rev. Mét.
— Blast Furnace, Coke Oven & Raw Materials Committee, Proceedings	Proc. Blast Furn.	Metal Finishing	Metal Finishing
— The Electric Furnace Committee, Proceedings	Proc. Electr. Furn.	Metal Finishing Journal	Metal Finishing J.
National Open-Hearth Steel Committee, Proceedings	Proc. Open-Hearth	Metal Progress	Metal Progress
American Iron and Steel Institute, — Annual Statistical Report	Amer. Iron & Steel Inst. —, Ann. Stat. Rep.	Metal Treating	Metal Treating
— Contribution to the Metallurgy of Steel	—, Cont. Met. Steel	Metalloberfläche	Metalloberfläche
American Society for Metals, Preprint	Amer. Soc. Metals, Preprint	Metallurgia	Metallurgia
American Society for Testing Materials, — Preprint	Amer. Soc. Test. Mat., —, Preprint	Metallurgia Italiana	Met. Ital.
— Special Technical Publication	—, Spe. Tech. Pub.	Métallurgie et la Construction Mécanique	Mét. et Constr. Mécan.
Archiv für das Eisenhüttenwesen	Arch. Eisenhüttenw.	Modern Castings	Mod. Castings
Blast Furnace and Steel Plant	Blast Furn. & Steel Plant	Revue de Métallurgie	Rev. Mét.
British Iron and Steel Research Association, Reports	Brit. Iron & Steel Res. Assoc., Rep.	Schweissen und Schneiden	Schweissen u. Schneiden
British Welding Journal	Brit. Welding J.	Sheet Metal Industries	Sheet Metal Ind.
Centre de Documentation Sidérurgie, Circulaires d'Informations Techniques	Centre Doc. Sidér., Circ. Inform. Tech.	Stahl und Eisen	Sahl u. Eisen
Corrosion	Corrosion	Stal	Stal
Foundry	Foundry	Steel	Steel
Foundry Trade Journal	Foundry Trade J.	Steel Processing	Steel Process.
Giesserei	Giesserei	Transactions of the Metallurgical Society, American Institute of Mining, Metallurgical & Petroleum Engineers	Trans. Met. Soc., Amer. Inst. Min., Met., & Pet. Eng.
Iron Age	Iron Age	Transactions of the American Society for Metals	Trans. Amer. Soc. Metals
Iron and Coal Trades Review	Iron & Coal Trades Rev.	Transactions of the Institute of Metal Finishing	Trans. Inst. Metal Finishing
Iron and Steel	Iron & Steel	Transactions of the Institution of Mining and Metallurgy	Trans. Instn. Min. & Met.
Iron and Steel Engineer	Iron & Steel Eng.	Transactions of the Society of Automotive Engineers	Trans. Soc. Auto. Eng.
Iron and Steel Institute, Special Reports	Iron & Steel Inst., Spec. Rep. (U. K.)	United States Bureau of Mines, — Bulletin	U. S. Bur. Mines. —, Bull.
Jernkontrets Annaler	Jernkont. Ann.	— Information Circular	—, Inf. Circ.
Journal of the Institute of Metals	J. Inst. Metals	— Mineral Industry Survey	—, Miner. Ind. Survey
		— Minerals Yearbook	—, Miner. Yearbook
		— Report of Investigations	—, Rep. Invest.
		Welding Journal	Welding J.
		Werkstoffe und Korrosion	Werkstoffe u. Korrosion
		Wire and Wire Products	Wire & Wire Products
		Zeitschrift für Metallkunde	Z. Metallkunde

第4表 かながきの例

可	不可	可	不可	可	不可	可	不可
明らか	明か	かりに	仮に	それぞれ	夫々	ほかに	外に, 他に
あらかも	恰も	きわめて	極めて	ただ	唯	ほとんど	殆ど
扱う	扱かう	……くらい	……位	ただし	但し	ほど	程
あらかじめ	予め	ここ	此所, 茲	たとえば	例えは	ほぼ	略々
表わす	表す	……こと	……事	ため	為	ますます	益々
ある	在る, 有る	異なる	異なる	だいたい	大体	また	又, 亦
あるいは	或は	ことに	殊に	ちなみに	因みに	まだ	未だ
(と)いう	(と)言う	これ, この	之, 此の	ちようど	丁度	まちがい	間違い
いかなる	如何なる	ごとく	如く	ついて	就て, 付いて	まで	迄
いづれ	何れ, いづれ	ごとに	毎に	ついに	遂に	みなす	見做す
いつそう	一層	さしつかえ	差支へ	(の)とおり	(の)通り	(して)みる	(して)見る
(して)	(して)	ささえる	支える	(する)とき	(する)時	向かう	向う
いただく	頂く, 載く	しかし	併し, 然し	……ところ	……所, 処	明りよう	明瞭
いつたん	一旦	しかも	而も, 然も	伴う	伴なう	もし	若し
(して)いる	(して)居る	したがって	従て……	ともに	共に	もちろん	勿論
いわゆる	所謂	……に従う	…にしたがう	ないし	乃至	…(し)やすい	…(し)易い
おいて	於て	しだいに	次第に	なお	尚, 猶	やはり	矢張り
おそい	遅い	しばしば	屢々	なぜ	何故	やや	稍
遅れる	おくれる	……しまう	…了う, 終う	など, ら	等	ゆえに	故に
おのおの	各々	十分に	充分に	ならびに	並びに	ようす	様子
おもな	主な	少ない	少い	なるべく	成可く	ように	様に
および	及び	すなわち	即ち, 則ち	はなはだ	甚だ	ようやく	漸く
かえつて	却て	すべて	総て, 全て,	ページ	頁	わかる	判る, 分る,
かかわらず	拘ず		凡て	ほう(の)	方(の)		解る
かつ	且	ずつ	宛, づゝ			わたつて	亘つて
かなり	可成	その	其の				

講演時間変更のお知らせ

春秋の講演大会における講演時間は従来、質疑を含め25分で行なつてまいりましたが、討論会の実施ならびに最近における講演数の増加により、日程上現状を維持することが難かしくなってきました。そこで今春の第71回講演大会では、下記の通り講演時間を変更することになりましたので、お知らせいたします。

講演者をはじめ各位のご協力をお願いいたします。

記

1 講演につき 講演—15分 質疑—5分

講演プログラム変更のお知らせ

第71回講演大会講演プログラムは「鉄と鋼」2月号にてご案内いたしましたが、プログラム中一部変更がありましたのでお知らせいたします。

変更プログラムは3月号、4月号講演論文集に掲載いたしてありますが、下記の変更表をご覧のうえ、お間違いなくご聴講下さいますようお願いいたします。

2月号掲載プログラム			変更プログラム(3月号, 4月号掲載)		
会場名	講演時間	講演番号	会場名	講演時間	講演番号
3	13:00	66	3	11:45	66
5	9:20	102	3	13:00	67
3—4		67—100	3—4	講演時間変更なし	68—101
5	9:00	101	5	9:20	(1番ずつ繰下げ) 102

表彰記念特別講演会開催のお知らせ

— 4月5日(火) 14:30~17:00 —

4月5日、第51回通常総会後の表彰式にて、服部賞、香村賞、俵論文賞、渡辺(三郎)賞、渡辺(義介)賞を受賞される方々の表彰記念特別講演会を、表彰式終了後引続いて東京大学工学部8号館教授会室において開催いたしますので、会員多数お誘い合わせのうえご来聴下さい。

記

14:30 演題未定
15:50 演題未定
15:30 演題未定
16:00 鋼中酸素の挙動と脱酸の原理
16:30 演題未定

渡辺(義介)賞受賞者 塩 沢 正 一
服部賞受賞者 辻 畑 敬 治
香村賞受賞者 筒 井 統一郎
俵論文賞受賞者 松 下 幸 雄
渡辺(三郎)賞受賞者 檜 垣 達

特別講演会開催のお知らせ

— 4月6日(水) 9:00~12:00 —

本会では昭和39年に通産省より鉄鋼の生産設備能力調査の基礎となる「能力算定基準」を、最近における技術の進歩に対応したものに改訂または新規作成するよう依頼をうけ、本会内に鉄鋼生産設備能力調査委員会を設置、製鉄、製鋼、圧延各設備について各方面の協力を得て「能力算定基準」を作成いたしました。

また、国内一般炭を活用して、製鉄用コークスを製造し、原料炭輸入の防止を図る目的で昭和39年から政府の委託をうけ、本会内に「国内炭活用製鉄用コークス製造試験委員会」を設け、総額1億9000万円におよぶ、コークス製造の試験研究を続けてまいりましたがこのほど試験が完了、試験結果が提出されました。

本会では第71回講演大会を機会にこれら2件の調査ならびに試験結果を下記のごとく特別講演会として会員各位にご報告いたすことになりました。多数会員がご来聴下さるようご案内申し上げます。

日 時 4月6日(水) 9:00~12:00

場 所 東京大学工学部 8号館教授会室

鉄鋼生産設備能力調査委員会報告講演

9:00 挨拶

9:10 製鉄生産設備能力算定法式について
製鋼生産設備能力算定法式について

委員長 沢村 宏
製鉄設備副部長 林 敏
製鋼設備部長 佐野 幸吉

国内炭活用、製鉄用コークス製造試験委員会報告講演

10:30 挨拶

10:40 国内炭活用製鉄用コークス製造試験について
記録映画

委員長 久田 清明
試験実施委員長 白石 芳雄

討論会開催のお知らせ

— 4月6日(水) 13:00~17:00 —

第71回講演大会の際に行なわれる討論会につき、討論テーマを事前に発表、会員各位からご投稿いただくために、会誌にてご案内いたしましたところ、多数の討論会論文のご投稿がありました。討論会プログラムは編集委員会において別記(13ページをご参照下さい)のごとく編成されました。ご参加の方々が活発な討論を行なえるよう十分に討論時間をとっております。多数会員奮って参加下さるようご案内いたします。

記

日 時 昭和41年4月6日(水) 13:00~17:00

会場および 1) 焼結鉱の還元時(特に低温域)における挙動 8号館83番教室

討論会テーマ 2) 純酸素上吹転炉製鋼法における酸化反応の機構 8号館82番教室

3) 構造用鋼の特性におよぼす微量ニオブ添加の影響(特に強化機構) 2号館大講堂

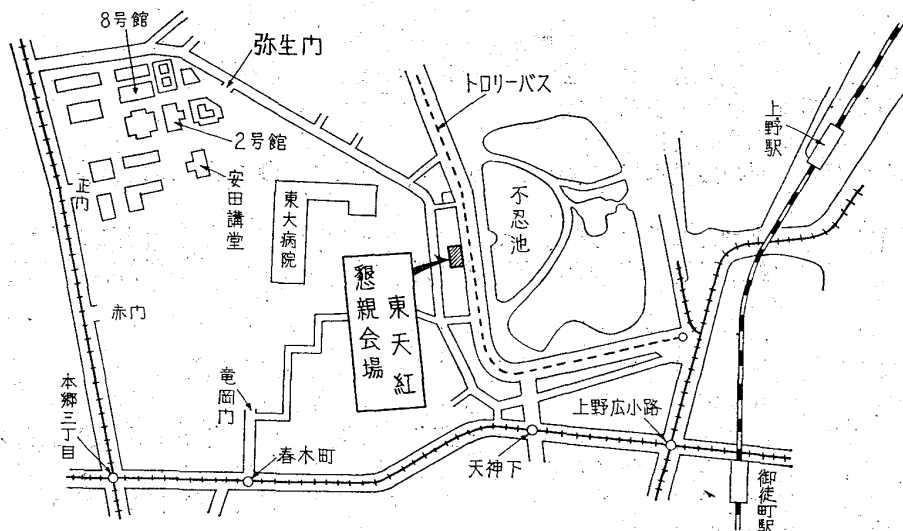
4) 鋼中非金属介在物と機械的性質 2号館21番教室

討論講演 討論論文は会誌「鉄と鋼」第3号に討論1), 2)を第4号に、討論3), 4)を掲載いたします。

懇親会場および見学会集合場所案内

懇親会会場（4月5日 18:00）および見学会（4月8日）集合場所の略図は下記の通りです。参加者はお間違いなく、定刻までにご集合下さるようお知らせいたします。

懇親会場付近略図（東大より徒歩約15分）

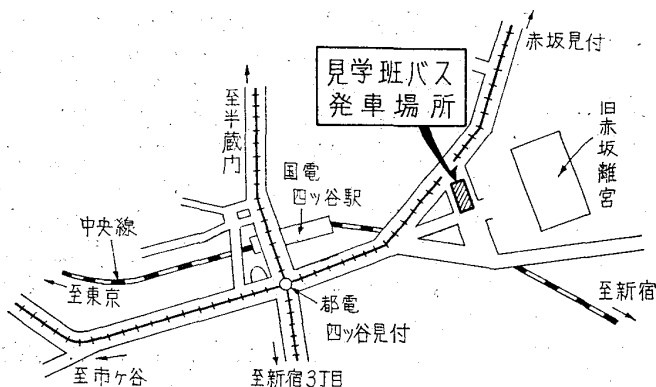
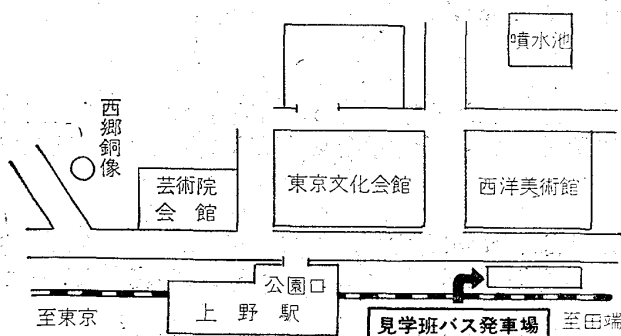


見学会集合場所付近略図

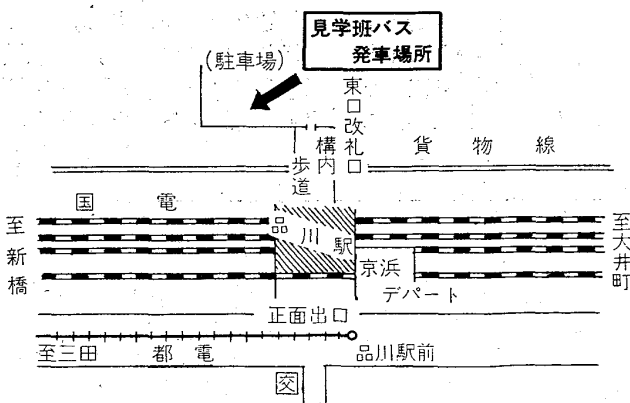
第1班の集合場所は水戸駅前です。

第2班～第3班集合場所(上野駅公園口脇)

第4班～第5班集合場所(旧赤坂離宮前)



第6班～第8班集合場所(品川駅海岸口前)



学協会記事

第10回材料試験連合講演会講演募集要項

- 共 催** 日本学術会議材料試験研究連絡委員会，日本鉄鋼協会ほか 17 学協会
(幹事学会 高分子学会，土木学会，日本航空学会，日本材料学会)
- 日 時** 昭和41年9月8日(木)・9日(金)
- 会 場** 京都大学工学部土木総合館
- 講演申込**
1. 参加学会所属の会員は当該学会をつうじて申し込み，参加学会会員以外の方は直接幹事学会に申し込むこと。
 2. 講演内容はすでに発表されたものでも差しつかえないが，最近の研究に属するものが望ましい。なお，研究内容は材料の諸物性，諸性質の測定および試験ならびに材料の適切な使用に関する応用研究を包含する。
 3. 講演時間は約 20 分（討論を含む）の予定。
 4. 講演の採択などは材料試験連合講演会運営委員会に一任されたい。
 5. 申込用紙は B 5 判とし，次の事項を必ず記載すること。
 - a) 講演題目，b) 梗概約 200 字，c) 講演部門名，d) 講演ならびに連名者の各氏名，勤務先，通信先，学会員資格，年齢（連名の場合には登壇者に○印をつけること），e) 講演題目，氏名，勤務先には英文を付記すること，f) スライド使用の有無（大きさは35 mm），g) 欧文論文集(付記参照)へ投稿希望の有無。
- 講演部門**
- I. (微視的構造) Micro-structure of materials
 - II. (材料の力学—弾性，塑性，粘弾性等) Mechanics of materials
 - III. (材料の力学的性質) Mechanical properties of materials
 - IV. (材料のその他の性質) Other properties of materials
 - V. (構造強度) Strength of structures
 - VI. (材料の加工と処理) Working and processing of materials
 - VII. (その他) Special problems
- 申込締切** 昭和41年6月20日(月)
- 講演前制** 聴講者のテキストとし，あわせて講演時間の短縮，掛図などの節約のため，講演者全部の講演前刷を作るので，講演者は前刷原稿を必ず期日までに所属学会へ（参加学会々員以外の方は，申し込んだ幹事学会へ）提出すること。
- a) 講演前刷原稿提出期日 7月20日(水)
 - b) 前刷原稿は規定の原稿用紙2枚以内（図表，写真を含めて邦文で約2,600字）に明りように墨書し，なるべく余白を避けるように留意のこと。（講演前刷はオフセットになるので写真も入れることができる。）
 - c) 所定原稿用紙は講演申込者に所属学会から送り，所定用紙以外に書いた原稿は受付けない。
- (付 記)
1. 発表論文は Proceedings of the Tenth Japan Congress on Testing Materials にのせ，諸外国にも頒布の予定である。
 2. 本論文集に登載される論文は今回発表されたもので欧文で未発表のものに限る。
 3. 投稿希望者は別に送られる規定原稿用紙に執筆し，講演会当日までに，日本材料学会気付材料試験連合講演会論文集刊行会（京都市左京区吉田泉殿町1の101電話56局5321番）に提出すること。
 4. 当日以降の提出原稿は受理しない。また，不備な原稿は返却することがある。